根源勇曽我
まへの巻
八編
種員作
国貞画
一恵斎芳幾

根源實紫

十五 上の巻

八

八

根源實紫

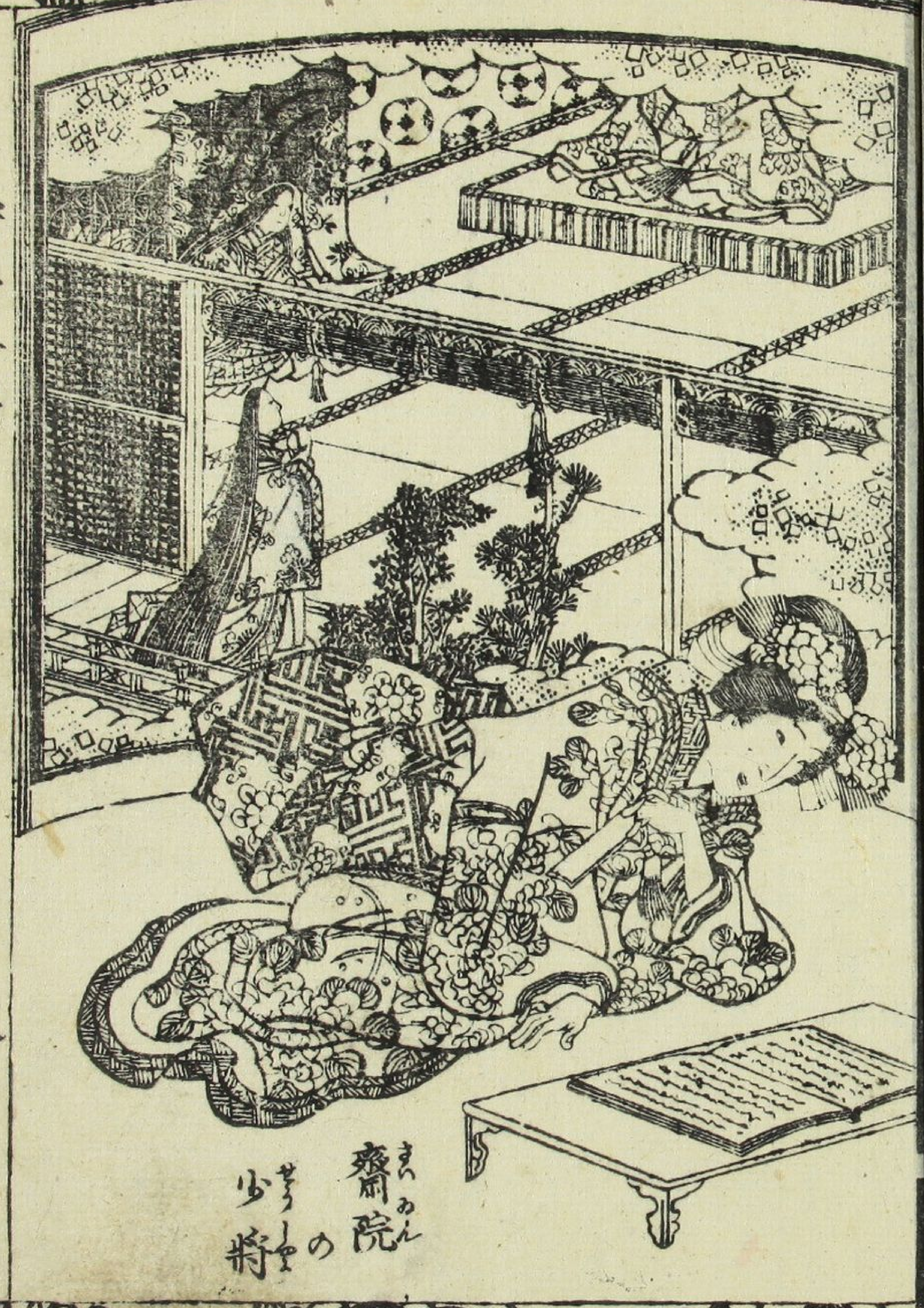
上巻

笠亭仙果作

梅蝶樓國貞画

泉喜太板

石山寺に参籠して源氏を作りし物と計一向に心得しハウニコウルて獣角に思ひし昔のさゝ今や段々理を究め大地ハ独の如きものと説に疑ふ者曾てなく不二乃山も孝靈の御代ではなき人信せざる然ハ有ども空言ハ又虚誕で通じ物の本草造紙として哭たりや笑ふりして悦ぶハ道理の外に娯樂なる、されバ吾黨乃幸なりなるを以て名まても但も實紫ハ倭紫の面影に傚へるを板元数注文あるまゝ其由縁に絡るといひて年々に延しおきしが紫式部の後家にある語も已に近づきれバ是より華ハいよ／＼薄らぬ實勝の所ハ雅蒙達の必適意まじと今ハ浅ね田舎染彼紫筆を摘出て源氏乃大意を遠へのらせ書とる中に結構たれバ其俤を畫繪も御剛熟多きを力にて十七編になりより桐壺幕木と記出さんとするに石山ならぬ和泉蒲團の形の東山を寄より京極の家に筆とりそめぬれの大御時に[illegible]書



齋院の少将

いつれの御時にか女御かういあまたさふらひ給けるなかにいとやむことなききはにはあらぬかすくれてときめき給ふありけりはしめより我はと思ひあかり給へる御かた〳〵めさましきものにおとしめそねみ給ふおなしほとそれより下らうのかういたちはましてやすからすあさゆふの

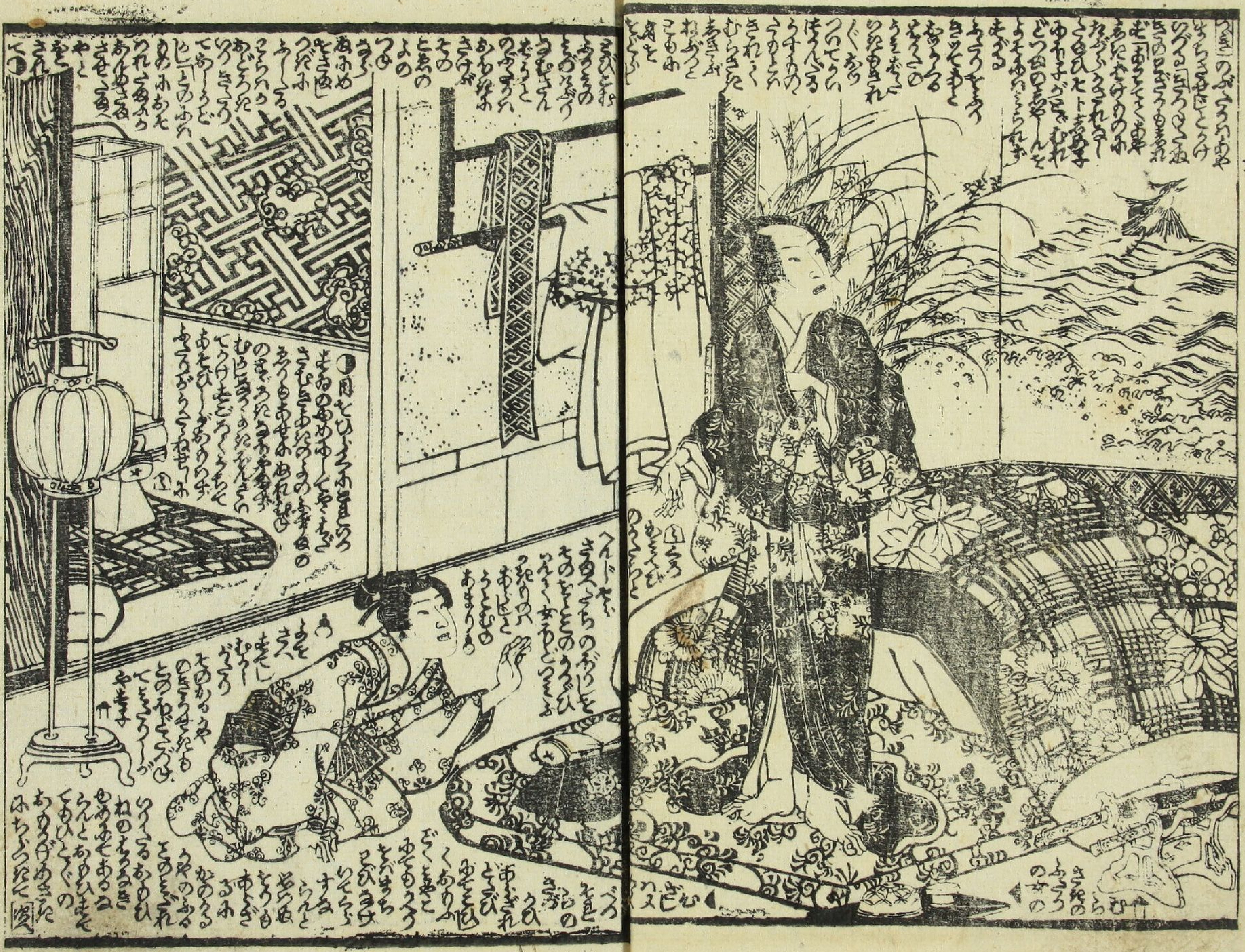
式部丞惟規

のぶのりは北國にて没りしよし十訓抄難後拾遺等に見えたれど此草紙には長壽せしやうにあらはせ

出したる其の巻の繪をもて口画の補景とするも猶一角の堅しと雖も手拙つく子や不二額の姉さんに諫まれぬべくや

壬戌春新刊

柳亭種彦



◎いのりたまへと いゝけりわらのこゝも みなれバかゝいあるよ のぞみもちかならず させられくも [illegible]んをこふしいのまゞ [illegible]もおすと うきたるふゝ[illegible]のぶ [illegible] [illegible]への [illegible] むらさき[illegible]ふの ふこも[illegible]ひぶき てらむ[illegible]らくと うれしさ[illegible]る ふそくのふ[illegible]ひ ことだのもる あぜんとさ[illegible]く いとも[illegible]する こびのそふさひ おとせし [illegible] しやうハ文ぶんの [illegible] いでかうれ やも子が あやしき やまひ [illegible] ふるはどを

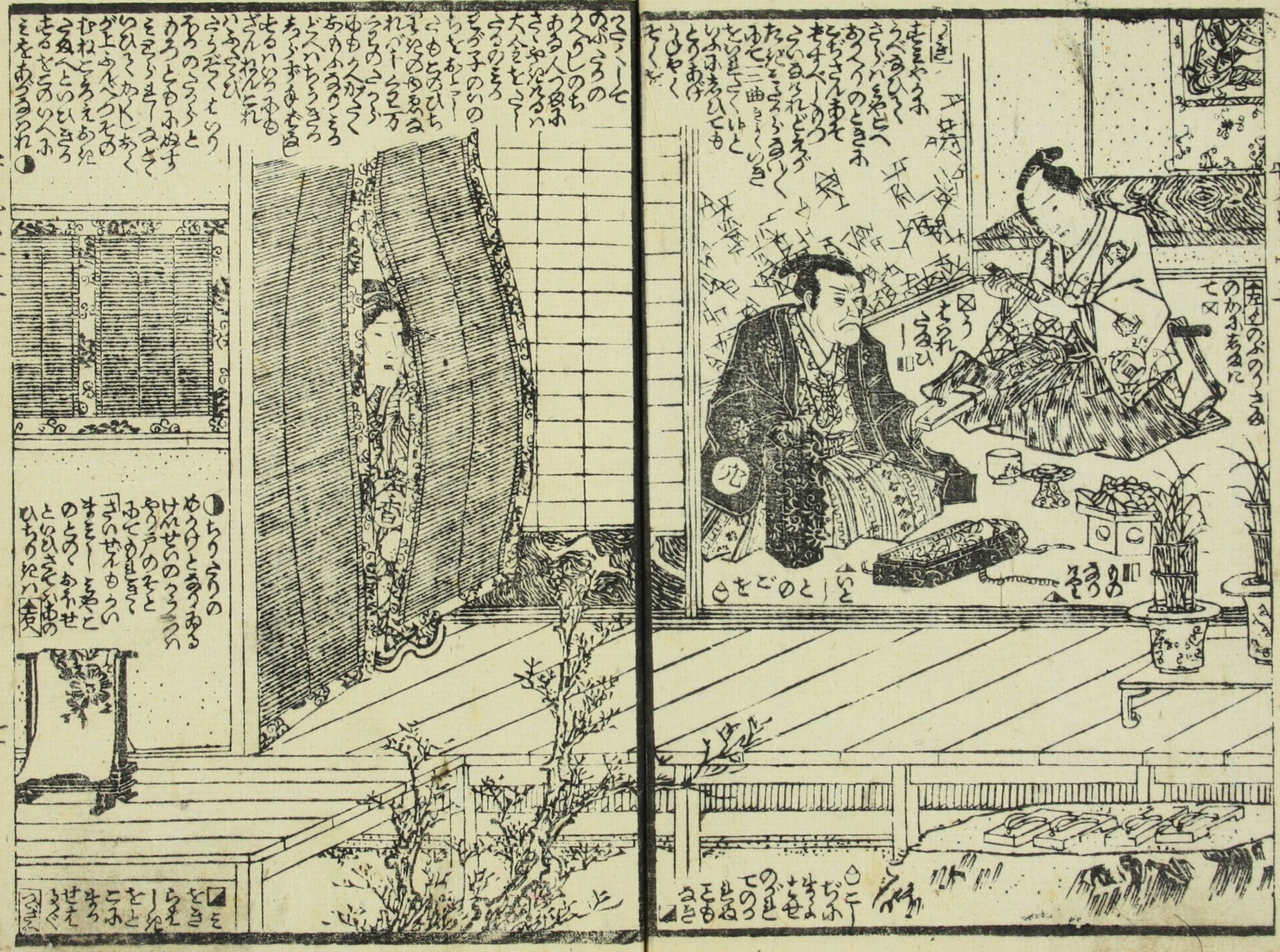
(一のつゞき) さあれどここのおんうち ふゆめくもとへいくべうぶにと きびしくちのらひつけ[illegible] [illegible]どもゝ [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] ふつめぶんとこのところは ◦あひやんとおめふ [illegible] [illegible]のりの [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]の [illegible] [illegible]

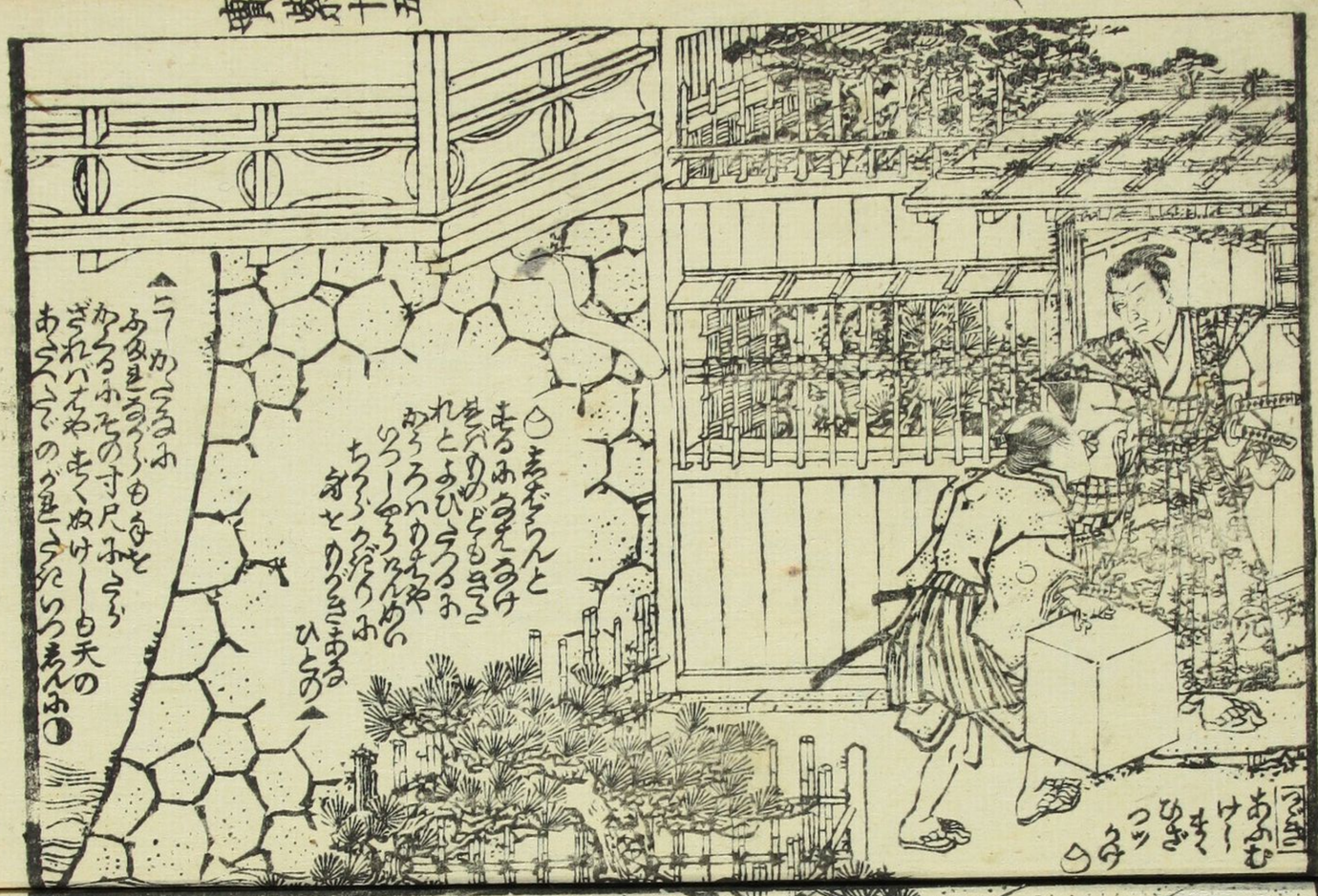
[illegible] つぎよもんどこのおん [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]のを [illegible] ことまでおくべきこと あまぶれとく [illegible] つぐの日 [illegible]

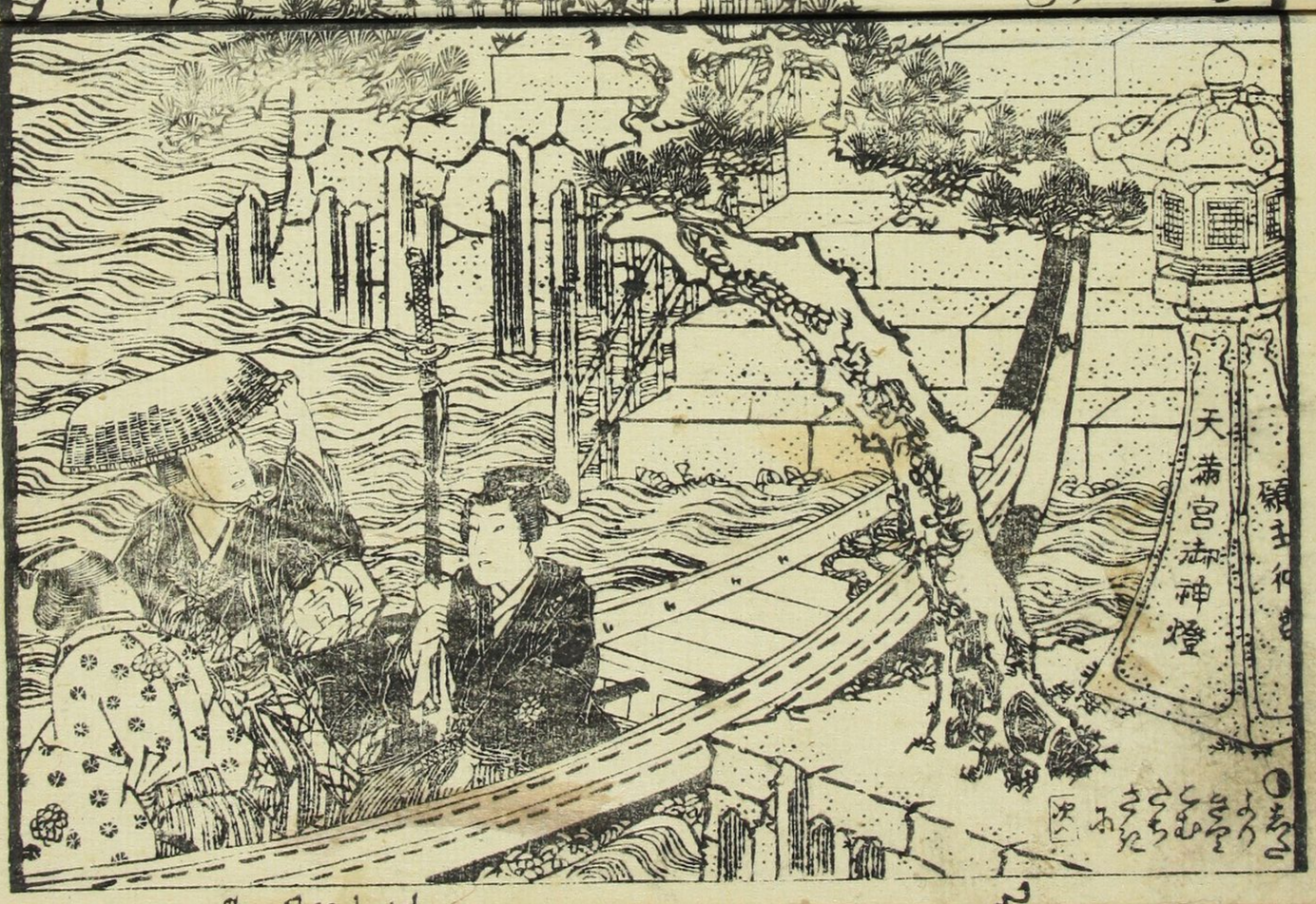
◦かるうすあもふえの [illegible] [illegible] [illegible] ◉ [illegible]

(よくえるふ) くいそくまるに [illegible] さいゐんのこ[illegible] ゆた親族[illegible]のぶの [illegible] うむら[illegible] とくぐえののと [illegible] これをひ[illegible] のぶのりは [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

好豈[illegible] [illegible] [illegible]





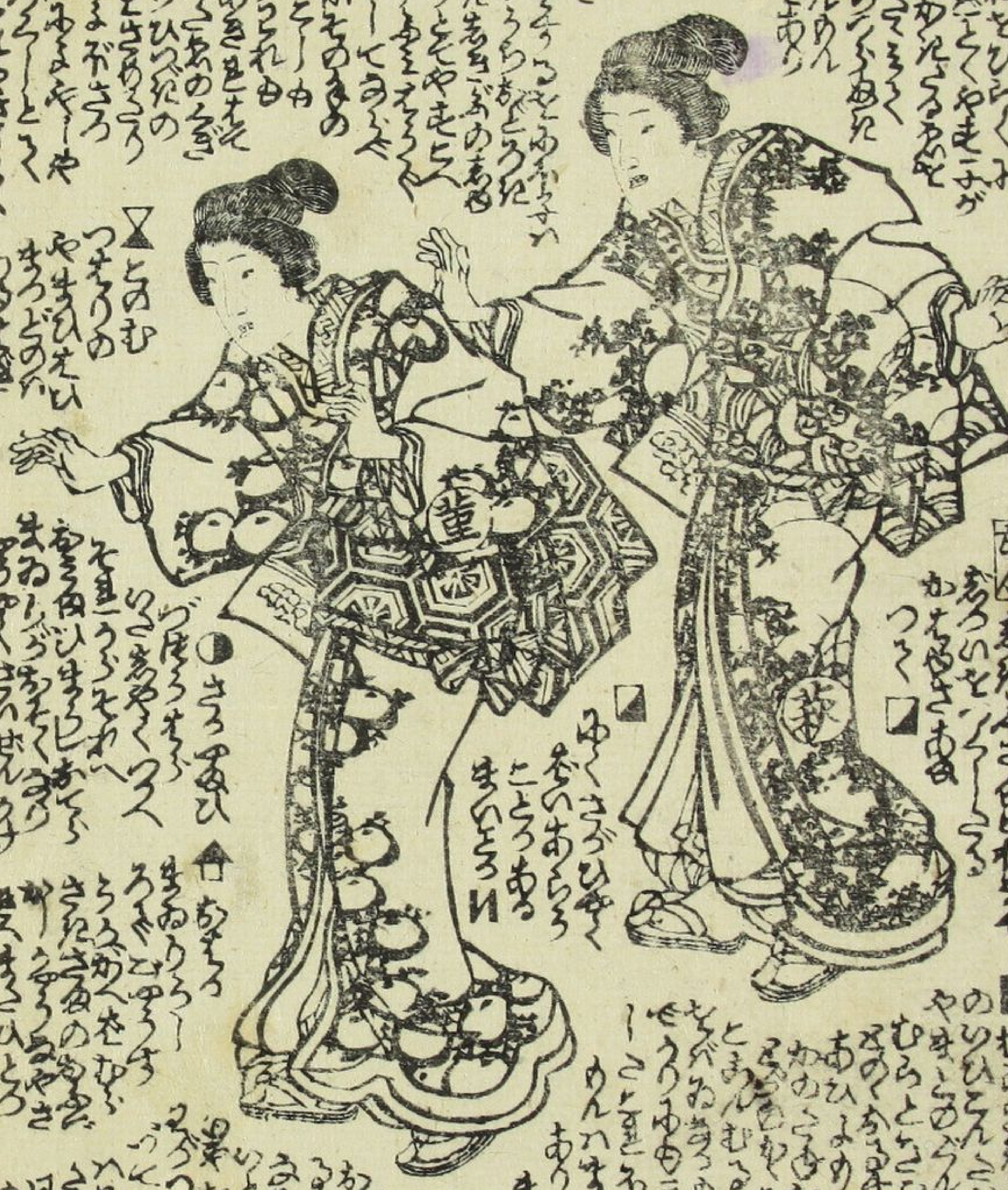

願主仙
天満宮御神燈

種彦作
國貞畫

橋姫社
壽

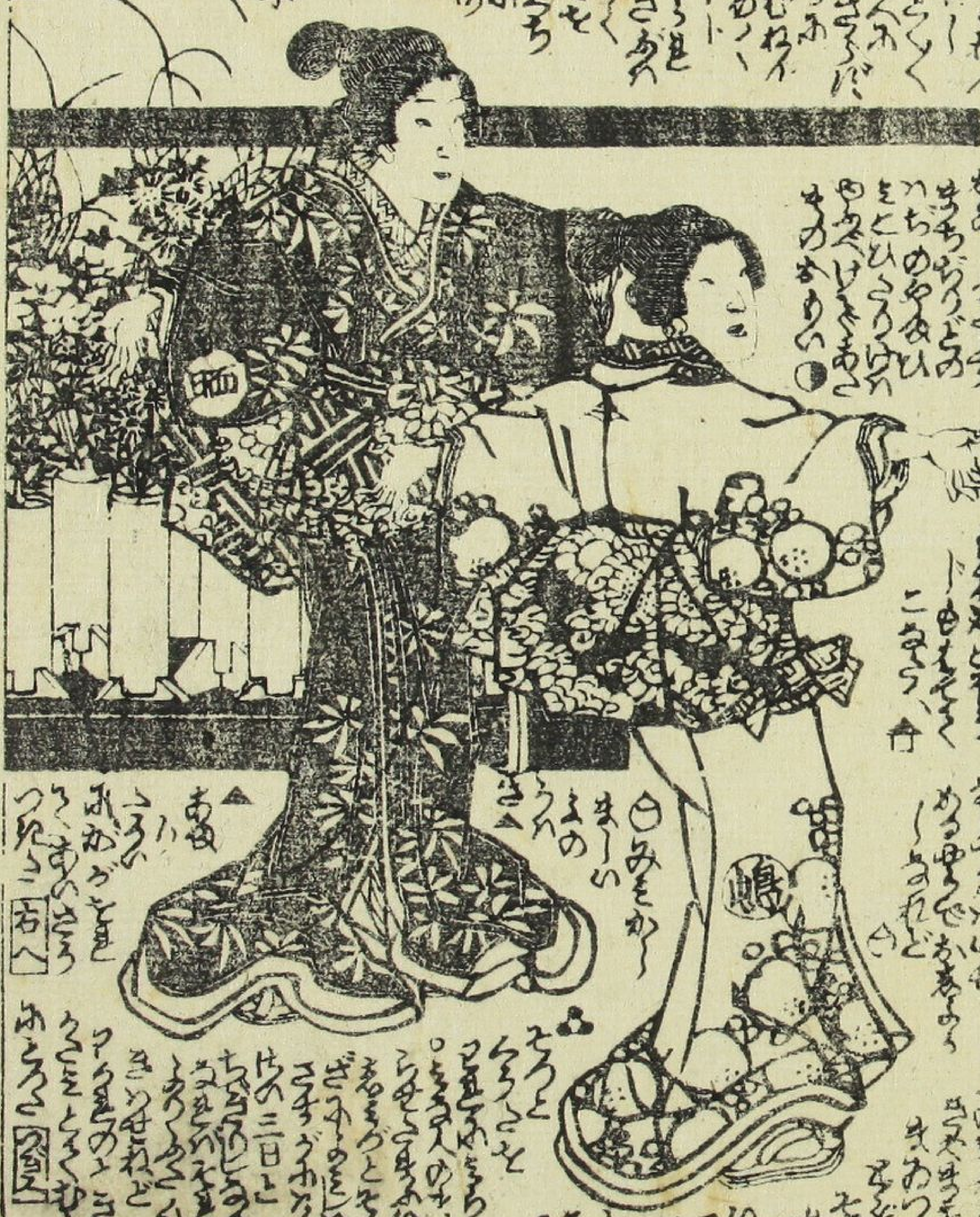
これをひらくみのけみづからくやましげが [illegible]

[illegible]



やゝありて [illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

右ハ續古事談一巻に今載て本文なり柳彦が所謂達磨の無功徳ろ口まゝなる言に罪はあれど云々の一言は温すよ聞えて殊に美し實紫は偐紫の中なる物がたり讀なりし、その更々其にに似たりつれ勧善懲悪を識作乃本意あれども拙筆なそれ千辛万苦の功徳もなく婦童の教訓にあるろあらぬ毒にはいよよなりけるとて律師が口すさび給へる者ハ

戊辰年春發販

柳亭のちの種彦[illegible]

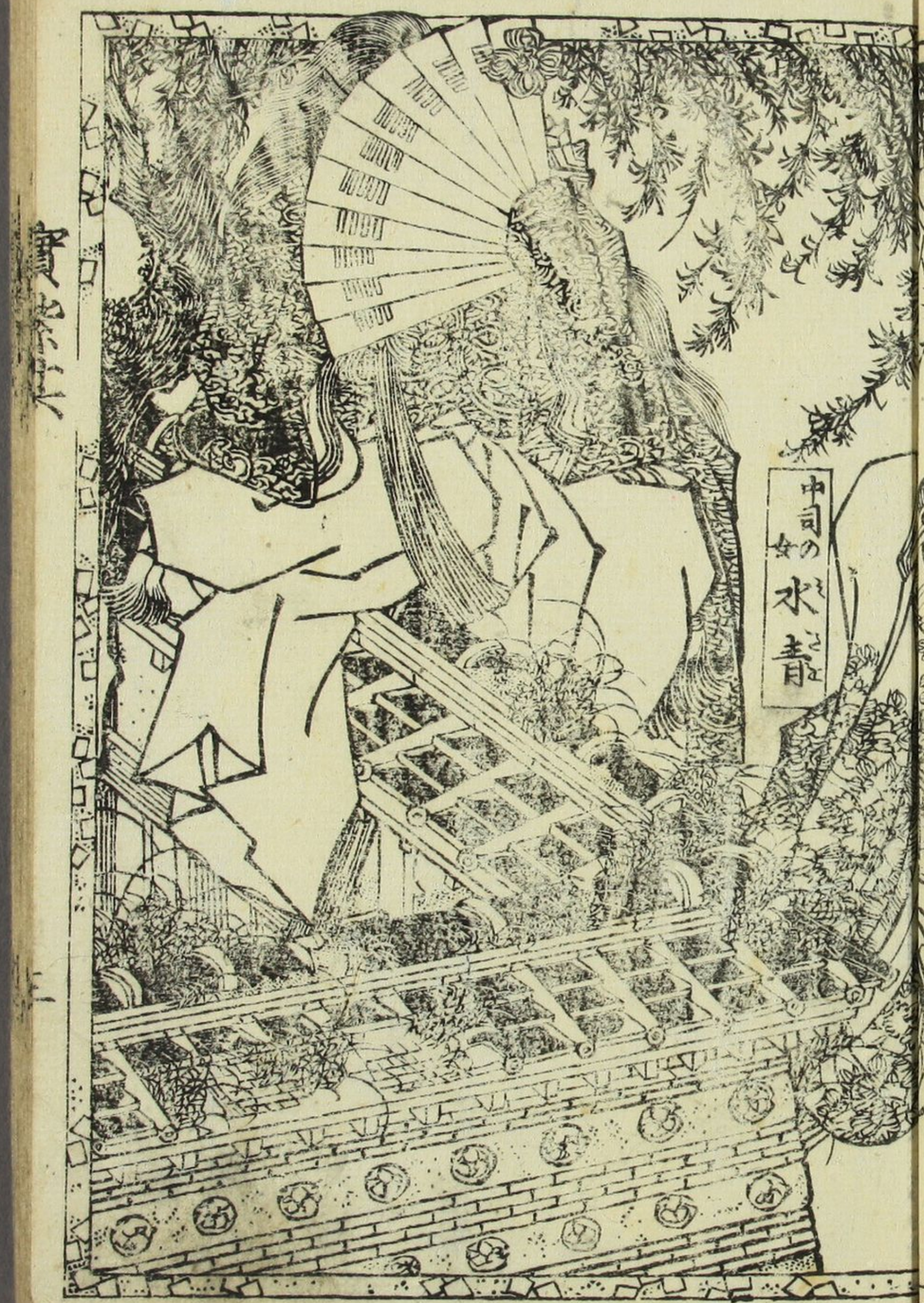
種彦作

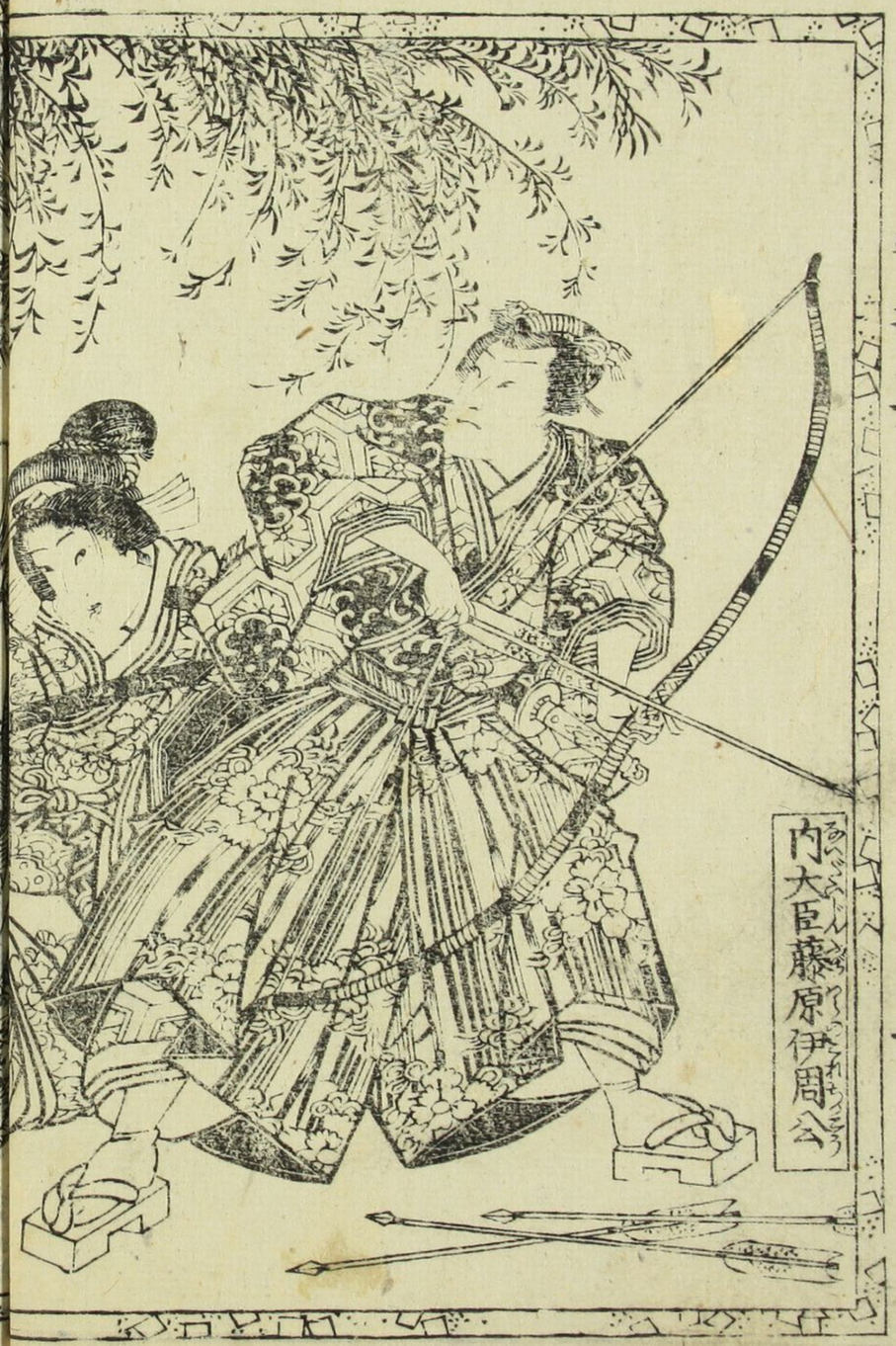
國貞画

[illegible]

十六編 その善悪をしめ、黒白判然とつらまと これまでの まぢ大きさ むまびをまるに いくらべし

紫式部


中司の女 水青

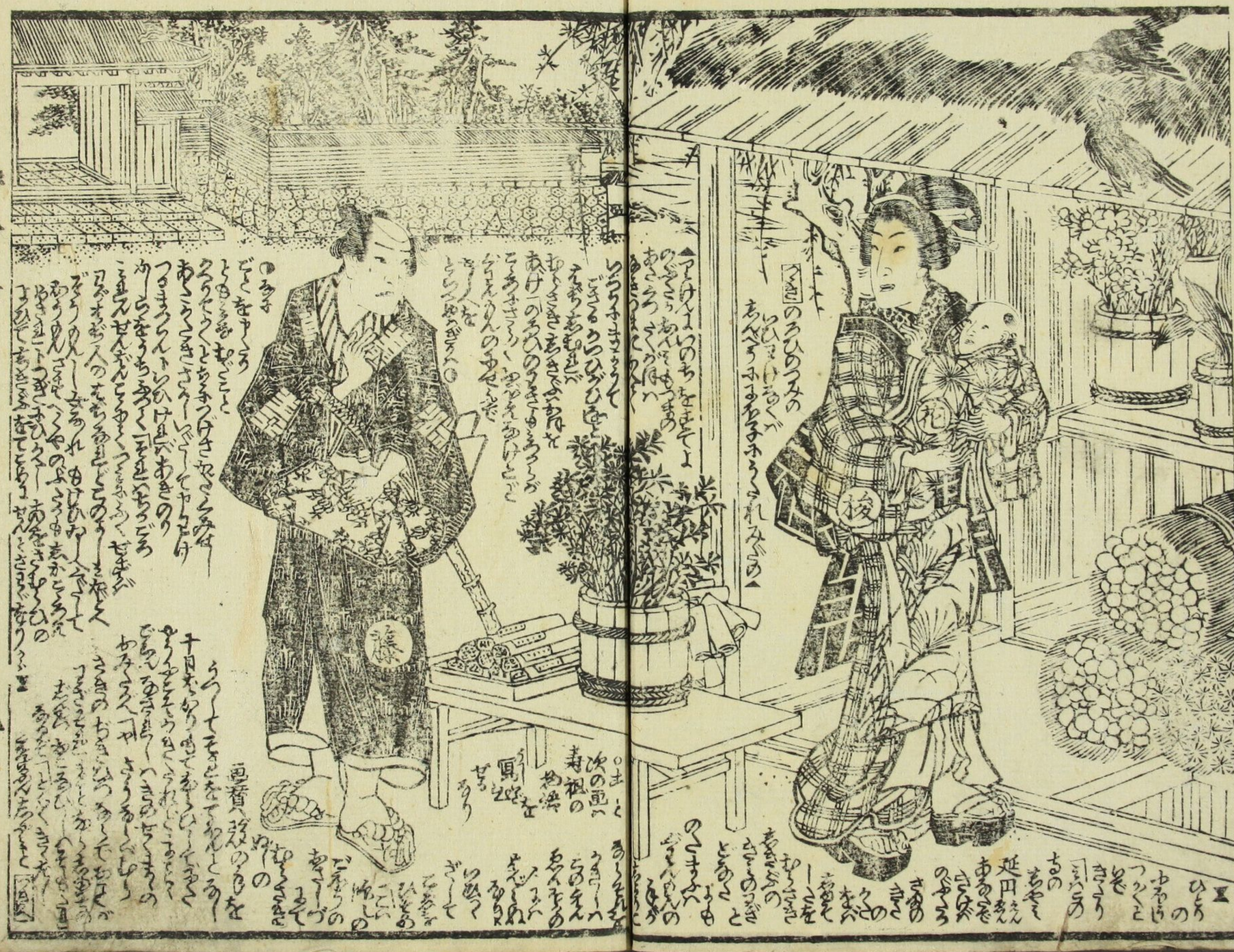

内大臣藤原伊周公

頭
女医
中司

宣
頭

壹時

宣
延
壽



種彦作
國貞画

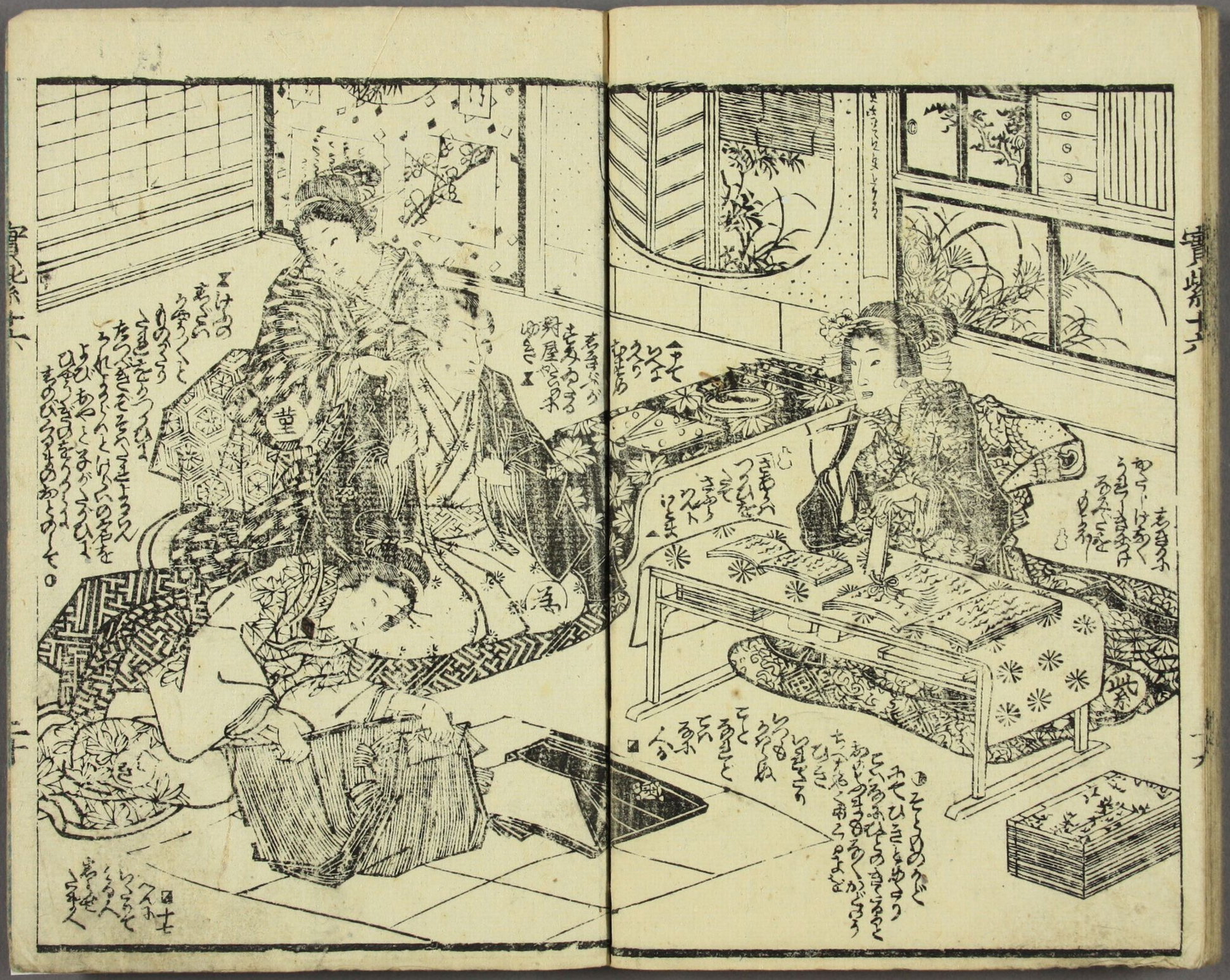
月宮 桂子
惟
槙
吉

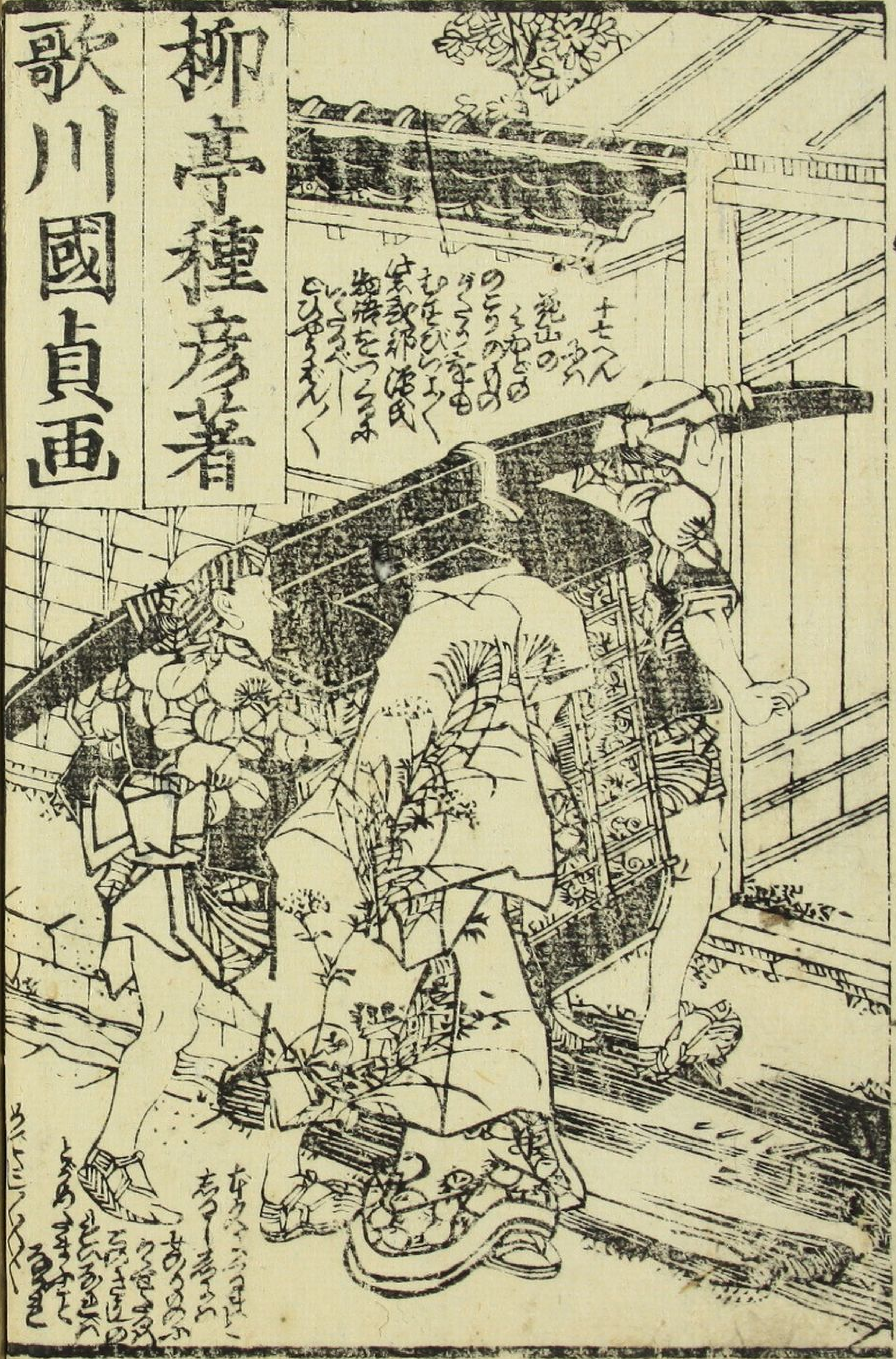
柿

戸
荒

柿

梵





十返舎一九作 滑稽道中膝栗毛

柳水亭種清作 不思議塚小説櫻

同 風俗浅間ヶ嶽

関太郎鈴ヶ譚 五篇大尾

柳水亭種清作 豊時田秋瀧新雁 三篇大尾

柳水亭種清作 猛田姉妹新白石 同

出版人 京橋区銀座四丁目三番地 山中喜太郎

十返舎一九作
滑稽道中膝栗毛

柳水亭扁水作
豊時田秋遊新碓
三篇大尾

柳水亭種清作
不思議塚小説櫻

柳水亭種清作
猛田姉妹新白石
同

同
風俗浅間ヶ嶽

関太郎鈴ヶ譚
五篇大尾

出版人 京橋区銀座四丁目三番地
山中喜太郎

八冊之内

林恵峰